

樽一物語 創業から発展期へ～その6「神田店、新宿店開店」

池袋に「樽一」2号店を開店した2年後の昭和48年、神田駅前に3号店を開店し、続けて、昭和49年に新宿店を歌舞伎町に出店した。

神田店は神田駅南口駅前で日銀通り沿いにあり、平成8年に閉店するまで営業していた。神田駅周辺は新橋駅と並ぶサラリーマンの街であり、居酒屋が立ち並ぶサラリーマンのための歓楽街である。サラリーマンが一日の仕事を終えて疲れを癒す店を標榜していた「樽一」としてはまさにうってつけの場所であった。昭和53年には、神田駅西口通り商店街に西口店もオープンし、一時期、南口店の近くに三陸サービスコーナーも設けた。

新宿店は、コマ劇場に向かう通り沿いの浅川ビル5階にあり、平成25年5月に現在の区役所通りに移転するまでの40年近く営業していたので、ご存知の方も多と思う。現在の「樽一」本店の雰囲気は浅川ビル5階の新宿店をできるだけ踏襲している。新宿店は人の賑わう歌舞伎町の入り口にあり、テーブル席のほかに個室の座敷席も設けて約50名分の客席を確保しており、他店に比べると広く、やがて「樽一」の基幹店となっていくた。

こうして複数の店を構え、たくさんのお客さんに三陸の味を楽しんでもらうため、新聞、雑誌にも広告を出し、記事にもしてもらった。東京で三陸の味が楽しめる貴重な店として「樽一」の名前は広く知られるようになっていった。そして、三陸の味を新鮮なまま味わってもらうために専用の冷蔵トラックも導入して、毎日塩釜、石巻、女川各漁港基地から直送便で食材配送を確保するようにした。もちろん、浦霞も直送。冷蔵トラックの荷台には、大きく「酒蔵 樽一チェーン 三陸直送」と書いてアピールもした。

1号店を開いてから数年で「樽一」は「樽一チェーン」となり、居酒屋チェーンとして知られる存在になっていった。